

平成21年度 国立特別支援教育総合研究所セミナーⅠ  
第2分科会 特別支援教育におけるキャリア教育の意義と展望  
ーキャリア教育の視点による教育課程及び授業の充実を目指してー

### 話題提供1

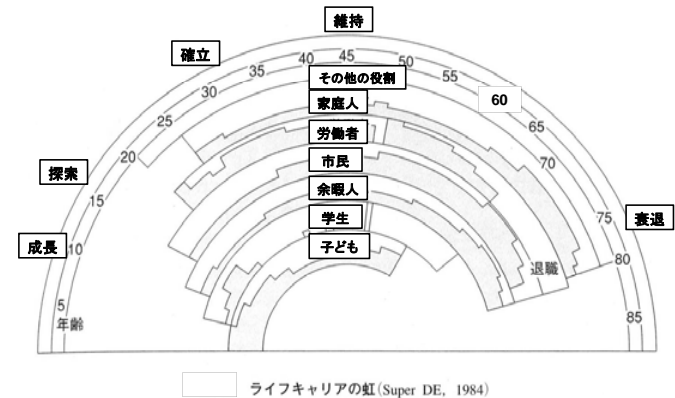
## キャリア教育の視点による教育課程及び 授業改善のための観点や方法の提案

ー「授業における観点位置付け・授業改善シート」及び  
「単元における観点位置付けシート」の活用ー

国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 菊地 一文

## ライフキャリアの虹 (D.E.スーパー)

「キャリアとは、人生のある年齢や場面の様々な役割の組み合わせである」



## なぜキャリア発達の視点が必要か

障害のある人の地域移行と働くことを含めた人生全体への支援が重要視されてきている

学校においては、小・中・高における教育内容及び教育方法の一貫性・系統性が求められている

夢や希望をもって主体的に取り組む児童生徒の育成が求められている

「働くこと」や「生きること」の支援には、ネットワークを支える基本的な価値観が必要  
→知的障害のある子どもの「キャリア発達段階・内容表(試案)」の作成及び活用

学校全体の教育内容における要素を抽出し、つなぐことを通した教育課程改善

キャリア発達をふまえた授業改善、授業開発

当事者の願いや主体性を大切にされた実践、他機関との連携・共同  
学習指導案一個別の指導計画一個別の教育支援計画

## キャリア教育の4つの能力領域

人間関係形成能力

情報活用能力

将来設計能力

意思決定能力

※職業教育及び進路指導に関する基礎的研究(国立教育政策研究所,1998)  
「進路指導の構造化のための概念モデル」(4領域)がベース

**知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」**

	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部	卒業後
人間関係形成能力	人とのかかわり 集団参加 意思表明 挨拶・清潔・身だしなみ	自己理解 他者理解 協力・共同 場に応じた言動		
情報活用能力	様々な情報への関心 社会のきまり 金銭の扱い 役割の理解と分担	情報収集と活用 金銭の管理 働くことの意義	法や制度の理解 消費生活の理解	
将来設計能力	習慣形成 夢や希望	役割の理解と遂行 生きがい・やりがい 進路計画		
意思決定能力	目標設定 振り返り	選択(決定・責任) 肯定的な自己評価	自己調整	

国立特別支援教育総合研究所(2008)

平成20～21年度NISEキャリア教育研究 研究内容

キャリア教育の実践モデルの提案

- 1 観点位置付け・授業改善シートによる、授業及び教育課程の改善・充実
- 2 本人の願いを支える個別の教育支援計画の充実
- 3 キャリア教育全体計画の作成
- 4 キャリア教育の観点をふまえた授業の充実

キャリア発達段階・内容表(試案)及び観点解説の改訂

Webサイトの開設、情報収集・意見交換

国立特別支援教育総合研究所

平成20～21年度NISEキャリア教育研究 研究体制

1 研究スタッフ

研究代表者 菊地 一文 副代表者 大崎 博史  
 研究分担者 井上 昌士、猪子 秀太郎、小澤 至賢、涌井 恵  
 所内研究協力者 太田 容次、棟方 哲弥  
 研究研修員 柴田 琢磨(H21)、渡部 英治(H21)、木本 恭嗣(H20)

2 研究協力機関

宮城県立気仙沼支援学校、東京都立青島特別支援学校  
 静岡県立静岡北特別支援学校、和歌山県立たちばな支援学校  
 広島県立黒瀬特別支援学校、京都市立下京中学校

3 研究協力者

山口 幸一郎氏(早稲田大学 教授)  
 松為 信雄氏(神奈川県立保健福祉大学 教授)  
 森脇 勤氏(京都市立白河総合支援学校 校長)  
 小塩 允護氏(愛知淑徳大学 教授)  
 木村 宣孝氏(北海道伊達高等養護学校 校長 ※ H20研究代表者)

国立特別支援教育総合研究所

授業における観点位置付け・授業改善シート

学年・学期	単元	単元の目標	②授業のねらいを確認する

①指導案から学習内容及び支援と指導上の留意点を転記する

③キャリアの観点を位置付ける

④次時への改善点  
⑤教育課程のつながり  
⑥生活全体へのつながり等の気づきを記入する

指導案(略案)を活用

観点を記入

気づきを記入

授業における観点位置付け・授業改善シートによる、  
授業及び教育課程の改善・充実について

(1) 位置付け方法

- ・各授業において、「キャリア発達段階・内容表(試案)」の各観点の要素が含まれていると考えられる個々の学習活動にその観点を位置付ける。
- ・観点については複数挙げてもよい。その場合、学習活動の目標(ねらい)が、各観点の趣旨と同じ場合は「主たる観点」欄に、学習活動のねらいとは異なるが、指導上の配慮事項等に各観点の趣旨が関連すると思われる場合は「関連する観点」欄に記入する。

※C→A→P→Dサイクルによる授業改善



授業における観点位置付け・授業改善シートによる、  
授業及び教育課程の改善・充実について

(2) 観点位置付け・授業改善シートの記入方法

- ・「気づき欄」には、授業における観点の位置付け作業を行うことを通して、授業者が気づいた事項を記入する。
  - ①次時の授業改善への反映  
→次時の授業の改善に関連すると考えられる事項
  - ②教育課程への反映  
→本授業の成果が、他の授業(他の指導形態)の目標、内容、方法等に反映できると考えられる事項
  - ③家庭生活・地域生活への反映  
→本授業による成果を、家庭・地域等と連携した活動等に反映できると考えられる事項



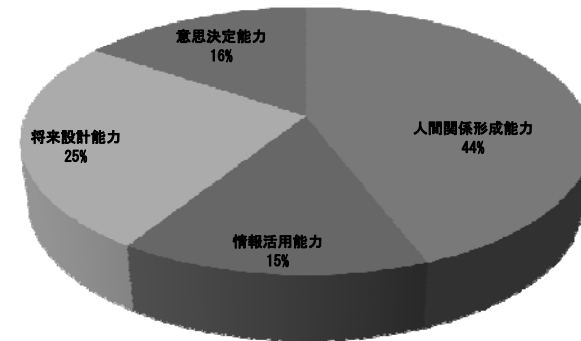
単元における観点位置付けシート

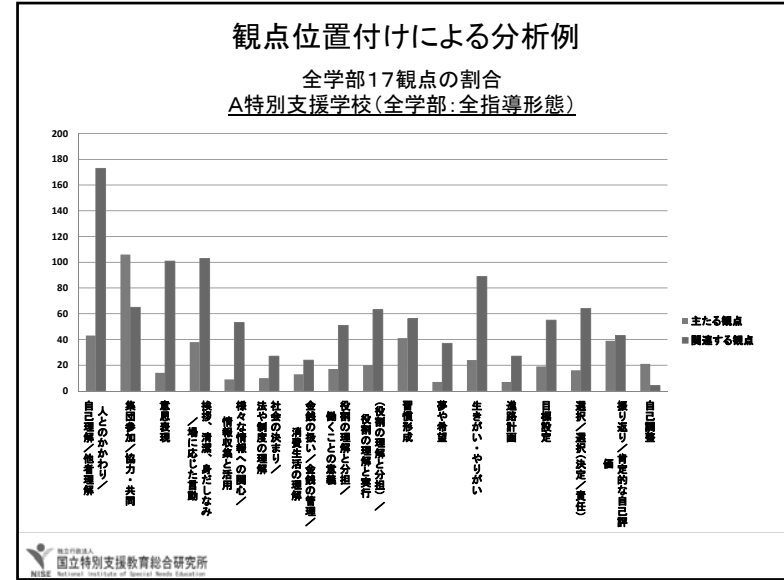
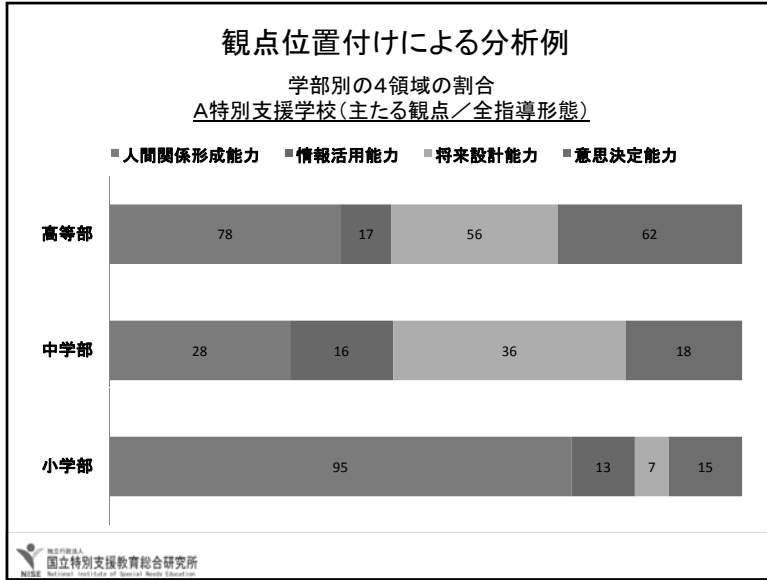
単元における観点位置付けシート

学校名	学年・クラス	単元	単元名	記入者			
				人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
課題・単元名	主なねらい						
年間指導計画を活用		該当する観点到◎を記入					
①年間指導計画から単元名と主なねらいを転記する		②該当するキャリアの観点について◎を記入する。(主たる観点到◎、関連する観点到○)					
		③位置付けられた◎を集計する					

観点位置付けによる分析例

全学部4領域の割合  
A特別支援学校(主たる観点/全指導形態)





### <参考> 単元においてねらうキャリアの観点シート

単元においてねらうキャリアの観点

単元名	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
単元・活動のねらい	自己理解/他者理解 集団参加/協力・共創 意思表明 課題/課題解決/解決 様々な情報への関心/活用 様々な情報への活用 情報収集と活用 「地」に応じた活動	情報の取捨選択 情報の活用 情報の活用 情報の活用 情報の活用 情報の活用 情報の活用 情報の活用	自己理解/他者理解 集団参加/協力・共創 意思表明 課題/課題解決/解決 様々な情報への関心/活用 様々な情報への活用 情報収集と活用 「地」に応じた活動	自己理解/他者理解 集団参加/協力・共創 意思表明 課題/課題解決/解決 様々な情報への関心/活用 様々な情報への活用 情報収集と活用 「地」に応じた活動
学習活動と支援と指導上の留意点	<p>年間指導計画を活用</p> <p>①指導計画を転記する</p> <p>ねらいとする観点に◎を記入</p> <p>②ねらいとするキャリアの観点について◎を記入する。(主たる観点到◎、関連する観点到○)</p>			
記入者				

